

令和3年度 第1回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和3年7月6日(火) 13時30分～14時55分

場 所： 羽曳野市役所 別館3階会議室

出席者：(委員) 奥川委員、金本委員、河津委員、実川委員、菅谷委員、高崎委員、南里委員、森委員、
協谷委員

(教育委員会) 村田教育長、林生涯学習室長、藪中社会教育課長補佐

(事務局) 奥野館長、石田参事、細井、岩佐

欠席者： 村尾委員

傍聴者： なし

次第

1. 開会

委嘱状交付

教育長挨拶

事務局より、会議録の要録を WEB 及び中央図書館にて紙ベースで公開すること、そのため会議を録音することを報告

委員の紹介、出席者9名で委員会成立の報告、事務局職員の紹介

事務局より推進委員会設置規則の説明

2. 議事

会長、副会長の選出 会長に菅谷委員、副会長に高崎委員を全会一致で選出

第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

3. 閉会

生涯学習室長あいさつ

報告

第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

令和2年度の進捗状況整理表に記載のすべての項目について、図書館及び関係各課の実施済み項目の内容と具体的な数値を事務局より説明した。

意見等

- ・本があるだけでは実際の読書には結びつかない。留守家庭児童会や保育園はコロナ禍でも開いている。貸出冊数は報告されているが、そこへ図書館員やボランティアが行って読み聞かせをした実績の数字があれば、実際に本が届いたのだなとわかる。
- ・子どもの読書活動は特別なことではなく日常的なことの延長でいいと思う。羽曳野市の特性として学校図書館に司書がいて、報告には上がっていない子どもたちに本を届ける取り組みをやっていると思う。また、保育園で子どもたちがこんなふうに本を楽しんでいるという事例、取り組みなど、そういう身近で日常的なことが報告に反映されているのではないかな。
- ・コロナ禍の状況だからこそ子どもたちに何できるか。イベントやおはなし会ができないのはわかるが、どう工夫すればいいのか、という考えがあると思う。本気度があまり感じられない。

例えば、Y A（注）への働きかけが全般に弱い。L Lブックの購入点数も少ない。外国語資料の記載もあるが、障害のある子どもや外国語の本が必要な子どもなどの実態調査をしなければならないのではないのか。（注）Y A：ヤングアダルトの略。子どもと大人の間の世代。

→L Lブックは令和2年度購入の点数だけを記載したが、毎年多くの点数が出版されるものではない。

毎年の新刊から少しずつ買い足している。今後も発行状況の情報収集をして積極的に購入していく。

- ・ブックリストについて、書名や著者を書いているだけでは読書に結びつかない。内容紹介などが必要。発行部数も少ないのではないか。リストの冊子のネーミングももう少し考えてはどうか。発行部数は誰に届けようと思って決めているのか。

→令和3年度から「ティーンズコーナーブックリスト」を「ティーンズ通信」として編集替えして発行している（陵南の森図書館）。最新の夏の号では、Y Aコーナーに配置している本から職員が選んだもの2冊を内容紹介している。外国語の本へのご意見も別であったが、今回の編集替えしたリストでは外国語の絵本とわかるように補足情報のメモをつけている。

- ・ブックリストの内容やタイトルの工夫は考えなくてはいけないと思った。
- ・研修について、受講している人数が少ない。羽曳野の中での研修、一人ひとりがスキルアップできる身近な研修が必要ではないか。

→コロナ禍で中止になった研修が多い。遠隔研修になった場合は人数枠があるので複数の人間が受講するのは厳しい面がある。少ない受講者ではあるが、資料を回覧して伝達研修を実施しているのが現状。

- ・遠隔研修は空いた時間に少しずつ見ることもできるのでこの点はいいことかと思う。ベテラン司書にとっても以前学んだことの復習になって有意義だ。日々の業務に追われているところがあるが、どうやって子どもたちに本を届けていこうか職員同士で意見を出し合って考えていきたい。
- ・リサイクル市はコロナ禍で中止になったとの話があったが、新たに始める事業か、前にもあったのか。どういう形で考えているのか。

→児童書に限っていないが、だいぶ前に「古本交換市」をやっていたことがある。陵南の森公民館の研修室で市民に持ち寄っていただいた本を並べて、冊数などを決めて持ち帰ってもらった。準備が大変だったこと、手がまわらなかったことがあり、知る限りでは2～3回くらいの実施になっている。市民から問い合わせは受けたことがあるので、市民の要望のある企画だとは理解している。コロナ禍の収束状況を見ながら企画検討していきたい。

- ・推進計画の内容は、人手がいることが多い。正規職員がいなくなかなか前に進めていくのは難しいかもしれないと思う。子どもの本のリサイクル市は、ボランティアを活用してやれることの真っ先にあがるのではないか。大人の本もふくめて、ボランティアを募りながら古本の交換会はコロナ後の第一歩になる事業ではないかと思う。

- ・学校司書教諭の全校発令への取組みとあるが、発令できていない学校はどのくらいあるのか。
- ・学校図書館で子どもたちに本を届けるには学校だけでは足りない。連絡便やたけのこくんブックボックスで公共図書館に助けてもらっている。先生から、たけのこくんブックボックスによる学級文庫で子どもたちに読み聞かせができてよかったとの声も預かってきている。校区内に図書館があるのでそこで楽しく過ごしているという様子も子どもたちから聞いている。

秋には読書月間で学校図書館と公共図書館でいっしょにやらせていただきたい。

- ・コロナ禍でできることを少しずつやっていくことが大事で、（幼稚園の）現場もどんな工夫ができるか考えないといけないと思う。
- ・（保育園では）たけのこくんブックボックスを利用している園としていない園がある。していない園は

近くに図書館があるので、そこを利用する楽しさを知っている。

大人が本が好きなうで、子どもに（本の楽しさを）伝えたいとの思いを持っている。（今日は）それを若い先生に伝えられているかの学びの場になった。

- ・子育て支援センターではコロナ禍の様子を見ながらおはなし会を再開している。職員もボランティアがどんなおはなしを子どもたちに紹介してくれるのか勉強させていただいている。お母さんたちに子どもがお気に入りの本を見つけてもらえるように絵本を紹介していきたい。発行している子育て情報紙（「てとてと」）でも一部、絵本の紹介をしている。実際に子育て支援センターで本を読んで、それを図書館で借りてもらえるようなつながりができたらと思う。どんな絵本がいいのか悩んでいるお母さんたちにいい絵本を紹介できればと思う。
- ・子育て支援センターで本を紹介して（上の階の）図書館の利用を促すことになればいいと思う。
- ・子ども文庫のことを知ってもらえる機会が少ないが、コロナ禍が落ち着いたら自分のまわりから広げていきたい。
- ・コロナ禍の中、1日でも早く幼稚園、子育て支援センターや図書館で（ボランティアとして）おはなし会ができることを心待ちにしている。

- ・推進計画に「まちライブラリー」について記載があるが、羽曳野にあるのか。
→パブリックコメントの「まちライブラリー」について入れてほしいとの意見を反映させている。現状、ないと思う。声掛けをいただいたら本の提供などできる範囲で支援していきたい考えで計画に載せた。
- ・推進計画に保護者文庫の設置を進めるとある。現在、学校では保護者の文庫を作っておられるのか。あるならば図書館の空白地域を埋める一つの手になると思う。以前は自動車文庫もあってよかったと思う。
→コロナ禍の状況で現状はわからないが、保護者文庫はいくつかの学校ではされているはず。全部の学校というわけではない。

- ・正規職員数が少なく厳しい条件ではあるが、再任用職員や会計年度任用職員の司書の方も含め一緒に推進計画を前に進めていただき、ボランティアも活用していただきながら、みんなで盛り立てていって子どもたちに本を届けたい。
- ・正規職員の配置については、先日も図書館協議会や子ども文庫連絡会から要望書を教育長さんに持っていかせてもらったが、市全体を考えながら、との返事をいただいた。
- ・次の会議までに、委員みんながこの計画を読んできて、「これならできる」というものを持ち寄ってはどうか。そうしてできることを少しずつでも進めていけるようにボランティアや各団体で協力し、次の推進計画（の策定）では新しい（内容の）計画を立てられる状態にしていけたらと願う。